

資料1 薬局薬剤師が発見・対応しているDRP(上位30)

疾患別対応マニュアル											
No	報告 件数	該当 件数	正解率 (%)	薬局薬剤師の介入推奨内容	対象医薬品名以外の定義	医薬品分類	がん	D M	脳 卒	心 血	精 神
1	6816	6816	100	CYP1A2・CYP3Aで代謝される睡眠鎮静薬・抗不安薬に加えて、同じCYP分子種に関する阻害薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は基質の薬効の増減に注意を払うべきである	クラリス、クラリシッド、ボノサップ、ラベキュラ、ランサップ、マインベース、ベルソムラ、スボレキサント	A. 睡眠鎮静薬・ 抗不安薬					○
2	1825	5702	32	腎排泄型の抗菌薬・抗ウイルス薬を腎機能の低下した高齢患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は薬物有害事象の評価をすべきである	透析、腎排泄、腎機能、副作用、クレアチニンクリアランス、GFR、CCr、Ccr、腎	J. 抗微生物薬					
3	1773	1847	96	クエチアピンまたはオランザピンを高年齢者に調剤する場合には、薬局薬剤師は糖尿病の既往を確認すべきである	糖尿、禁忌	C. BPSD治療薬		○			○
4	1717	8586	20	アセトアミノフェンを高齢患者に調剤する場合には、一般用医薬品を含むアセトアミノフェンを含む総合感冒剤を併用していないか確認すべきである	薬手帳、併用、他院、重複、新規、定期、重複、副作用、用量	I. 消炎鎮痛薬					
5	1441	4004	36	糖尿病治療薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は患者のHbA1cや血糖値を把握すべきである	血糖、HbA1c、検査値	E. 糖尿病治療薬		○			
6	1237	2379	52	抗コリン作用を有する薬剤を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は口渇、便秘や認知機能低下の評価をすべきである	抗コリン、口渇、口の渇き、唾液、便秘、せん妄、排尿困難、副作用	L. 抗コリン系薬剤					○
7	1041	2001	52	抗うつ薬を痙攣、緑内障、心血管疾患、前立腺肥大による排尿障害などの身体症状を有する高齢患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は身体症状の増悪を評価をすべきである	前立腺、緑内障、排尿、尿閉、血圧、痙攣、からつき、震え、ふるえ、眼圧、心臓、脈、副作用	B. 抗うつ薬					
8	1006	1048	96	直接作用型経口抗凝固薬を高年齢者に調剤する場合には、薬局薬剤師は腎機能を確認すべきである	腎、クレアチニン、Cr、GFR、透析	G. 抗凝固薬			○	○	
9	866	866	100	吸入長時間作用性抗コリン薬を前立腺肥大症の既往がある高齢患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は排尿困難の増悪を評価をすべきである	尿、前立腺	O. COPD治療薬					
10	772	965	80	テトラサイクリン系抗菌薬やフルオロキノロン系抗菌薬とアルミニウム/マグネシウム含有薬剤/鉄剤を高年齢者に調剤する場合には、薬局薬剤師は服薬間隔を2時間程度空ける必要があることを患者に説明すべきである	キレート、吸収、2時間、間隔、相互、アルミニウム、マグネシウム、鉄、金属	J. 抗微生物薬					

No	報告 件数	該当 件数	正解率 (%)	薬局薬剤師の介入推奨内容	対象医薬品名以外の定義	医薬品分類	がん	D M	脳 卒	心 血	精 神
11	704	1100	64	スタチン系薬剤を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は筋肉痛や消化器症状、糖尿病の新規発症の評価をすべきである	横紋筋融解症、筋肉痛、CK、脱力感、副作用、尿、倦怠感、胃	F. 脂質異常症治療薬			○		
12	679	1415	48	抗精神病薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は認知機能低下、錐体外路症状、転倒、誤嚥、過鎮静の評価をすべきである	認知、錐体外路、転倒、過鎮静、アカシジア、歩、嚥下、筋肉、よだれ、副作用(除外ワード:糖尿)	C. BPSD治療薬					○
13	623	865	72	H ₂ 受容体拮抗薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は認知機能低下の評価をすべきである	認知、記銘力、せん妄、腎、副作用	H. 消化性潰瘍治療薬					
14	567	567	100	メトホルミンを高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は低血糖、乳酸アシドーシス、下痢の評価をすべきである	低血糖、乳酸アシドーシス、下痢、副作用	E. 糖尿病治療薬		○			
15	546	682	80	フルファリンを高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は定期的な患者のPT-INRを把握すべきである	薬歴、PT、血中、検査、濃度、モニタ、INR	G. 抗凝固薬			○	○	
16	493	1028	48	オピオイド鎮痛薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は過鎮静を評価すべきである	がん、ガン、癌、副作用、過鎮静、眠、失禁、認知、せん妄、からつき、幻覚	P. がん疼痛治療薬	○				
17	472	492	96	ロズバスタチンやピタバスタチンを高齢患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はシクロスポリンの併用がないことを確認すべきである		F. 脂質異常症治療薬					
18	413	645	64	ベンゾジアゼピン系薬剤を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は過鎮静、認知機能の悪化、運動機能低下、転倒、骨折の評価をすべきである	転倒、骨折、認知、からつき、鎮静、注意力、せん妄、眠気、からつき、傾眠、副作用	A. 睡眠鎮静薬・抗不安薬					○
19	381	453	84	SU薬やインスリン製剤を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は低血糖の評価をすべきである	低血糖、副作用、空腹感、冷や汗、シック、震え、ふるえ、動悸、しびれ	E. 糖尿病治療薬		○			
20	276	690	40	マグネシウム製剤を高年齢者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は高マグネシウム血症の症状である悪心・嘔吐、血圧低下、徐脈、筋力低下、傾眠の評価をすべきである	高マグネシウム、高Mg、腎機能、マグネシウム値、悪心、嘔吐、血圧低下、脈、筋力低下、眠け、透析	K. 緩下薬					

No	報告 件数	該当 件数	正解率 (%)	薬局薬剤師の介入推奨内容	対象医薬品名以外の定義	医薬品分類	がん	D M	脳 卒	心 血	精 神
21	262	298	88	CYP3Aで代謝される高血圧治療薬に加えて、同じCYP分 子種に関する阻害薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤 後のフォローアップとして、薬局薬剤師は基質の薬効の増減 に注意を払うべきである	グレープフルーツ、GFJ	D. 高血圧治療 薬					
22	237	349	68	経ロビスホスホネート製剤やデノスマブを高年齢者に調剤す る場合には、定期的に歯科受診をするよう患者に説明すべ きである	顎、壊死、歯、抜	N. 骨粗鬆症治 療薬					
23	230	240	96	吸入長時間作用性抗コリン薬を高年齢者に調剤する場合に は、薬局薬剤師は閉塞隅角緑内障の既往を確認すべきであ る	緑内障、閉塞隅角	O. COPD治療 薬					
24	206	206	100	三環系抗うつ薬とマプロチリンを高年齢者に調剤する場合 には、薬局薬剤師は緑内障または心筋梗塞回復初期の既往 を確認すべきである	緑内障、閉塞、隅角、心筋梗 塞、禁忌	B. 抗うつ薬					
25	189	295	64	コリンエステラーゼ阻害薬を高年齢者に調剤する場合には、 調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師はBPSDの陽性 症状と類似した症状がないかを評価すべきである	興奮、攻撃、妄想、怒り、不 穏、無気力、脱力、イラ、だる さ、副作用	M. 認知症治療 薬					
26	168	234	72	認知症の高年齢者では、服用状況を管理できない可能性が高 いため、服薬補助者を決めるべきである	管理、施設の、家族に	M. 認知症治療 薬			○	○	○
27	168	168	100	チアゾリジン誘導体を心不全等心臓系のリスクが高い高齢 患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は副作用の観点から 使用を控えるよう検討すべきである	心不全、心肥大、体液貯留、 むくみ、浮腫、骨折	E. 糖尿病治療 薬		○			
28	167	220	76	デオフィリン製剤を高年齢者に調剤する場合には、調剤後の フォローアップとして、薬局薬剤師はデオフィリン中毒の評 価をすることが望ましい	中毒、血中濃度、振戦、頻脈、 悪心、頭痛、動悸、吐き気、 眠、副作用、肺疾患、COPD	O. COPD治療 薬					
29	163	313	52	吸入薬を高年齢者に調剤する場合には、理解力、視力、聴 力、ADL、吸気力を評価し、それらを考慮したうえでデバイス の選択や吸入補助具を検討すべきである	デバイス、補助具、呼吸、デモ 機、練習、指導、笛	O. COPD治療 薬					
30	162	338	48	SGLT2阻害薬を高年齢者に調剤する場合には、調剤後の フォローアップとして、薬局薬剤師は脱水や過度の体重減 少、ケトアシドーシス、尿路・性器感染を評価をすべきである	膀胱炎、腎炎、陰部、掻痒、体 重減少、脱水、ケトアシドーシ ス、かゆみ、陰カンジダ、副 作用	E. 糖尿病治療 薬		○			